

PA15 ひょうごスマートムーブの3年間の取り組み ～市民活動支援によるエコドライブとエコムーブの実践推進～

公益財団法人ひょうご環境創造協会 寺本佳生 / 中央復建コンサルタンツ株式会社 ○西堀泰英 / 公益財団法人豊田都市交通研究所 加藤秀樹

1 はじめに

背景と目的

- 兵庫県では、平成23年度から、地域で地球温暖化防止活動をはじめとした環境活動を行っているNPO 団体・市民団体が連携し地域活動支援を行い、CO2 削減を図る取り組みが進められている。
- この取り組みは、環境省の補助を受けて地球温暖化防止に向けた地域の活動を支援するものである。3年間取り組みを継続する中で様々な改善を行い、対象の拡大を図ってきた。
- 本報告では、3年間の取り組みの概要とともに、その中で進めてきた取り組みの改善内容について報告するものである。

コンソーシアムの概要

- 環境省「地域活動支援・連携促進事業」の補助対象として、コンソーシアムを設立し、事業を実施
- 地域で活動するNPOや市民団体を事業者・行政などと連携して支援することで、県民の「環境に配慮する移動（スマートムーブ）の実践」を先導する機能を果たすことを目指す組織（図1）

コンソーシアム構成団体	事業実施団体	<ul style="list-style-type: none"> エコウィングあかし、加東エコ隊、低炭素未来都市づくりフォーラム 兵庫県地球温暖化防止活動推進グループめだか、高砂市労働者福祉協議会(2013から)
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 明石市、加東市 加古川市、高砂市、兵庫県交通政策課(2013から)
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県トラック協会
	関係機関	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県指定自動車教習所協会 兵庫県大気環境保全連絡協議会
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ひょうご環境創造協会
外部有識者		<ul style="list-style-type: none"> 加藤秀樹氏（豊田都市交通研究所 主席研究員）

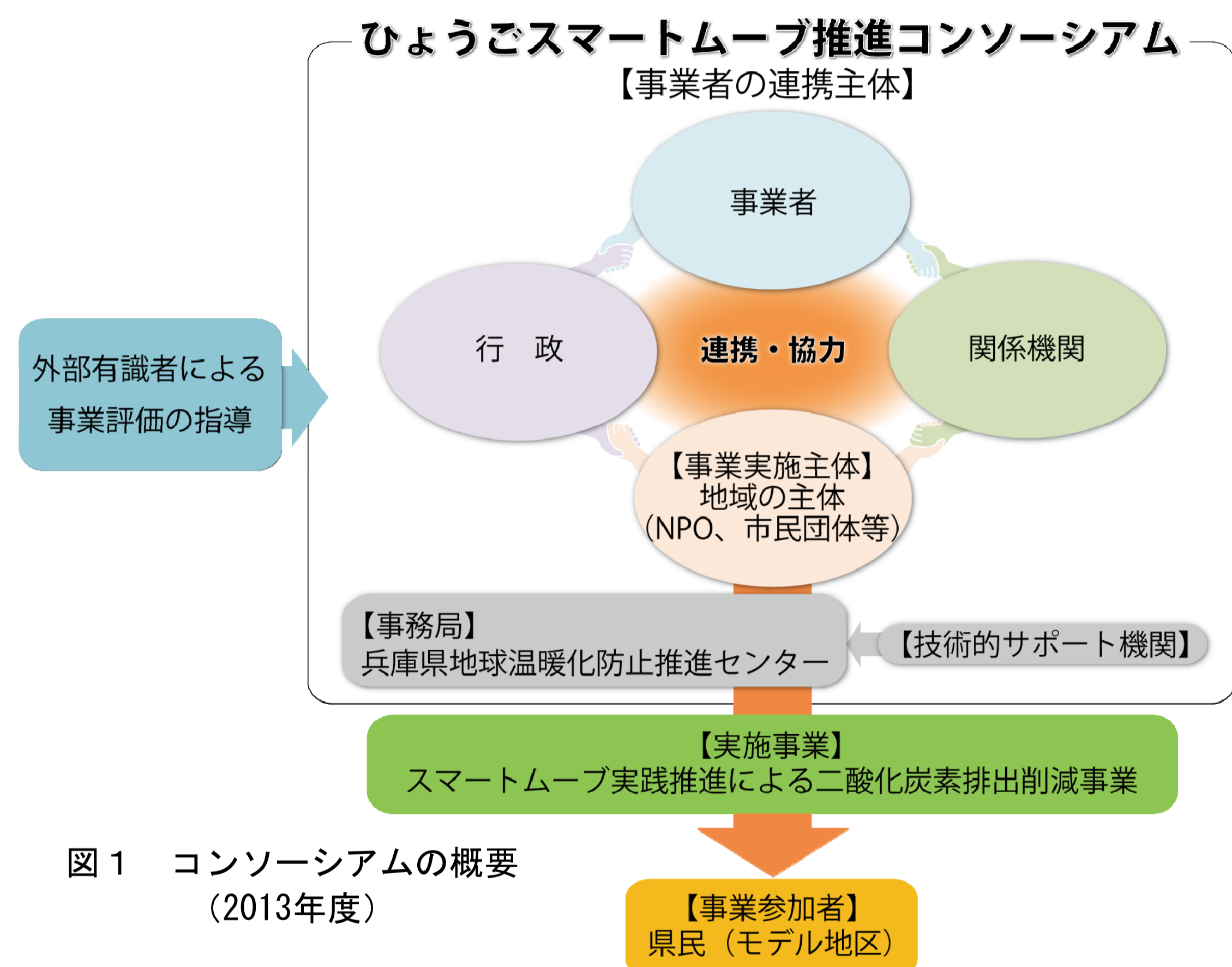


図1 コンソーシアムの概要 (2013年度)

2 スマートムーブの継続的取り組みの内容

◆1年目（2011年）：取り組みの基本的なスキームを構築

コンソーシアムの立ち上げ

- NPOや市民団体、事業者、行政等の関係機関、そして事務局からなるコンソーシアムと、外部有識者と連携した事業推進体制を構築
- 「**事業参加者募集**」「**事業の企画・運営・管理**」「**事業効果の評価**」を分担実施

エコドライブ効果計測方法の構築

- エコドライブ効果計測の方式として、「**精緻な評価とリアルタイムな情報提供が可能な燃費計（図2）測器方式**」と「**記録用紙（図3）方式**」を提供
- 多様なニーズ（詳細な評価を希望、簡単な評価を希望）の満足と参加者数確保に貢献

講習会等の様々な学習機会の創出

- エコドライブの実践方法の講義**（実技、座学）や、**参加者同士がエコドライブ実践時の工夫等の意見交換を行う勉強会**を開催（図4）
- エコドライブ方法の習得や、エコドライブ継続のための意識を啓発



図2 使用した燃費計



図3 使用した記録用紙



図4 H23勉強会の様子

◆2年目（2012年）：先進技術を取り入れた活動を実施

スマートフォンと無線通信技術を活用した計測方式の採用

- ・エコドライブの効果計測方式として、スマートフォンを無線LANによる通信技術を用いた方式を採用（我が国初の取り組み）
- ・スマホの画面にはリアルタイムでの運転診断結果を表示（図5）
- ・燃費計方式も継続して実施。記録用紙方式は廃止
- ・先進技術を取り入れたエコドライブ促進活動が全国的にも評価され、翌年度（2014年度）にはスマホ方式を採用する団体が多数出現→**ひょうご方式が全国の模範に**

EVやPHVなどの先進技術を採用した学習機会の創出

- ・昨年度のエコドライブの実践方法の講義に加えて、**電気自動車（EV）や、プラグインハイブリッド車（PHV）**を使った勉強会を開催（図6）
- ・勉強会ではエコドライブとあわせて、**HEMS（Home Energy Management System）**について学ぶ機会を創出（図6）
- ・エコドライブだけでなく家庭でのCO2排出削減についても理解を深める

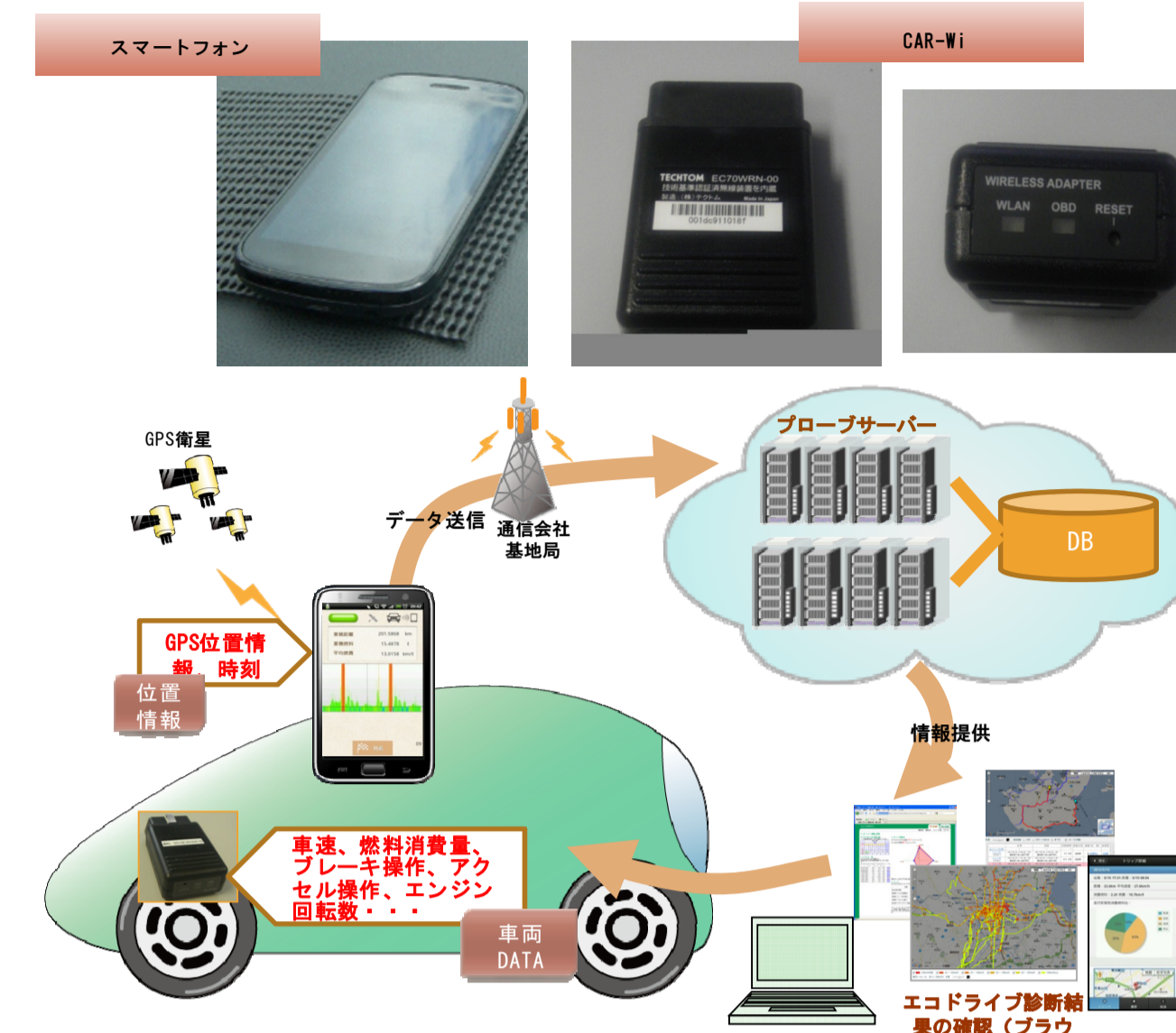


図5 スマートフォン方式のイメージ



図5 H24勉強会の様子

◆3年目（2013年）：クルマを使わないエコ交通（エコムーブ）に活動対象を拡大

エコドライブにエコムーブを加えてスマートムーブ活動に拡大

- ・活動の対象を、クルマを使ったエコ交通（エコドライブ）に加えて、**クルマを使わないエコ交通（エコムーブ）を追加して拡大**し、全体をスマートムーブ活動と命名
- ・エコムーブは「公共交通機関や自転車、徒歩などを上手に使うって環境に優しい移動」をすること。参加者はエコムーブ実践日を記録用紙にて報告（図7）
- ・勉強会等に講師を招聘し、**スマートムーブに関する最新的话题を提供**。講師の話しに触発されて、**新たな地域活動を企画する参加者も**（図8）

スマートフォン方式の改善

- ・スマートフォンを活用した効果計測の「充電がすぐに切れる」「出発時の操作が面倒」等の課題に対応した改良を実施
- ・効果計測手法に対する不満意見を減らすことができた

対象地域の拡大

- ・対象地域を、2年目までの明石市、加東市、洲本市に加えて、**3年目に新たに加古川市、高砂市を追加**

エコムーブ活動記録用紙について

このエコムーブ活動記録用紙は、車から公共交通機関や自転車・徒歩に移動する際のCO2削減量を算出するための記録用紙です。この記録用紙のエコムーブ活動報告書となります。

①実践する。 ②記録する。 ③報告する。

エコムーブ活動記録用紙は、兵庫県環境政策推進センターのホームページからダウンロードすることができます。
（Microsoft Word形式）

※ご報告は毎月お願います。
10月・・・11月15日までに必着
11月・・・12月16日（日）必着

エコムーブ活動の期間終了後

●郵送する場合
〒650-0001 兵庫県神戸市中央区南長崎通五丁目1番1号 兵庫県環境政策推進センター（兵庫県庁南長崎通5丁目1番1号 環境政策推進センター）
078-735-2292

●FAXの場合
078-735-2292

●メールで送信する場合
ondankaboushi@eco-hyogo.jp

●お問い合わせ先
兵庫県環境政策推進センター（兵庫県庁南長崎通5丁目1番1号 環境政策推進センター）
TEL 078-735-2738
FAX 078-735-2292

図7 エコムーブ活動報告



- 講師
山崎基浩氏
（豊田市交通研究所 主幹研究員）
- テーマ
「スマートムーブ」の必要性と豊田市エコ通勤を進める会の取り組み
- 講師
加藤博和氏
（名古屋大学大学院 准教授）
- テーマ
移動からエコに！交通から考える低炭素社会なまちづくり
- 講師
藤野純一氏
（国立環境研究所 主任研究員）
- テーマ
気候変動を考える ～COP19と福島から～

図8 講師による話題提供

3 まとめと今後の課題

まとめ

- ・エコドライブ活動では、運転情報収集・提供技術の向上を図り、全国の模範となる活動ができた。
- ・対象地域の拡大により明石、加東、淡路に加えて3年目には加古川、高砂の2地区が加わった。
- ・3年間で延べ約160人の市民がエコドライブ活動に参加し、3カ年で約37t-CO2のCO2を削減した。エコムーブ活動には約100名が参加し、約23t-CO2のCO2を削減した。

今後の課題

- ・これまでは事務局主導で取り組んできたが、事業実施団体である市民団体等の自主性の向上が求められる。
- ・地域特性を考慮した取り組み（公共交通利便地域でのエコムーブ、公共交通不便地域でのエコドライブ）が求められる。